

個人投資家説明会



大阪有機化学工業株式会社

OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

<https://www.ooc.co.jp>

証券番号 4187(東証プライム)



本日の内容

1. 大阪有機化学工業株式会社について
2. 中期経営計画 Progress & Development 2030
3. 株主還元

本日の内容

1. 大阪有機化学工業株式会社について
2. 中期経営計画 Progress & Development 2030
3. 株主還元

会社概要

会社名 大阪有機化学工業株式会社

創立 1941 年 12 月 8 日

設立 1946 年 12 月 21 日

代表者 安藤 昌幸 (代表取締役社長)

上場市場 東証プライム (証券コード : 4187)

従業員数 463 名 (連結)

資本金 36 億 29 万円

売上高 326 億円 (FY24, 新収益認識基準)

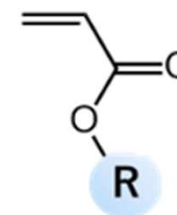
経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切にし、
ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、
お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン

特殊アクリル酸エステルのリーディングカンパニーとして、
グローバル市場に価値を提供する

アクリル酸エステル



事業拠点



韓国大阪有機化学工業(株)

中華人民
共和国

光碩(上海)化工
貿易有限公司



本社

営業所
ISO-9001



金沢工場

製造所 研究所
100,281m²
ISO-9001
ISO-14000



酒田工場

製造所
122,265m²
ISO-9001
ISO-14000
ISO-45001



東京オフィス

営業所
ISO-9001



大阪事業所

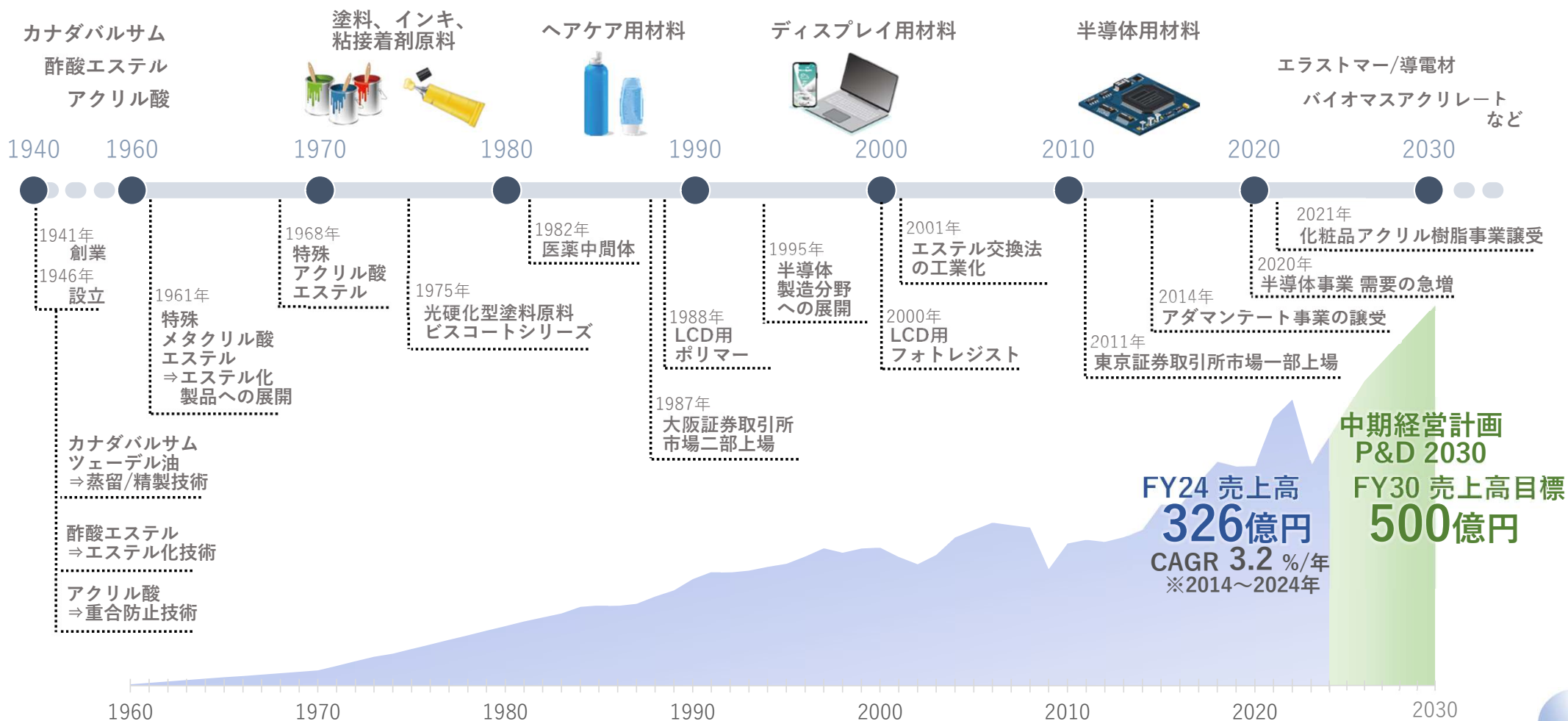
事業所 研究所
26,472m²
ISO-9001



神港有機化学工業(株)

● 当社事業拠点
2025.8.06現在

沿革・価値創造の歩み



業績 / 資本効率性

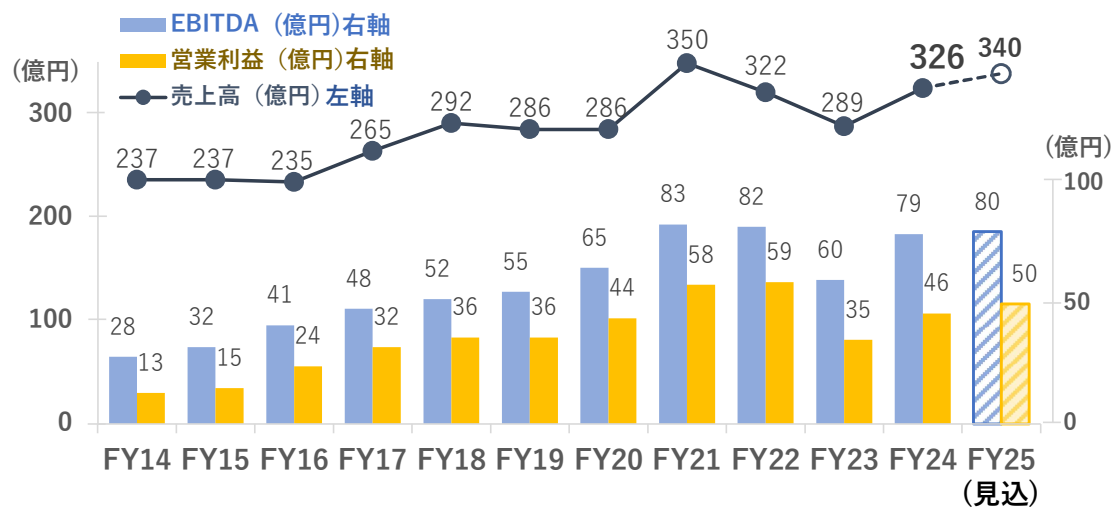
当社は技術開発力に強みを持ち、成長事業への積極的な投資により売上を向上。
また、効率性も重視し、長期的かつ持続的な成長を目指しています。

年平均成長率 (FY14~FY24)

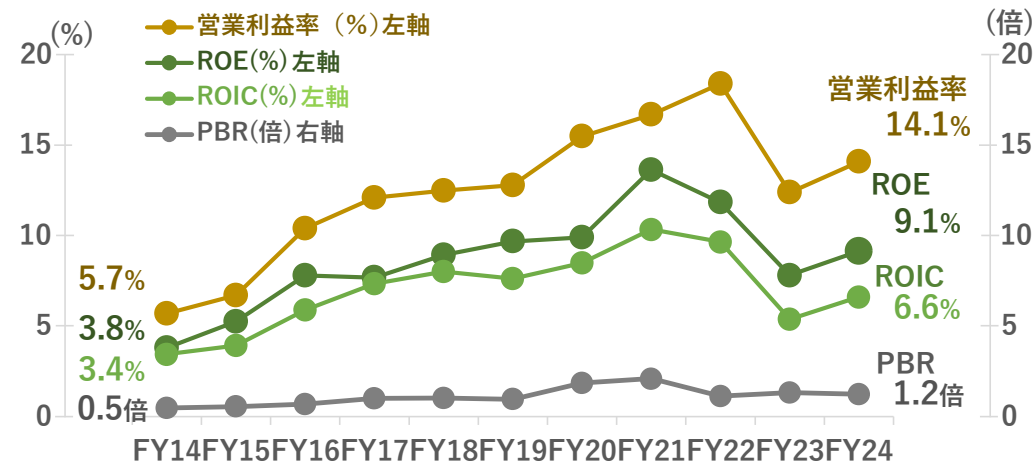
売上高	3.2 %/年
営業利益	13.0 %/年
EBITDA	10.7 %/年
EPS	17.2 %/年

経営指標の変化 (FY14~FY24)

営業利益率	5.7 % ⇒ 14.1 %
ROE	3.8 % ⇒ 9.1 %
ROIC	3.4 % ⇒ 6.6 %
PBR	0.5 倍 ⇒ 1.2 倍



※EBITDA = 営業利益 + 償却費



※いずれもFY14~FY24の期間で計算

2025年度 上期実績と通期業績予想

前年同期と比較し、全セグメントで売上高が増加。全体の売上高も13.4%増加し、174億円となりました。さらに、減価償却費の減少などにより、営業利益は前年同期比で57.2%増加し、29億2,200万円となりました。

	(百万円)	
	2025年 上期	
	予想	実績
売上高	16,800	17,400
営業利益	2,500	2,922
経常利益	2,600	3,040
純利益*	1,700	2,132
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	(75,000)	69,950
為替 (¥/\$)	(155)	150

* 親会社株主に帰属する当期(中間)純利益

2024年 11月期 実績	2025年 11月期 予想	(百万円)	
		前年実績比	
		増減額	増減率
32,698	34,000	+1,302	+4.0%
4,608	5,000	+392	+8.5%
4,753	5,200	+447	+9.4%
4,044	3,500	Δ 544	Δ 13.5%
75,600	(75,000)	—	—
150	(155)	—	—

カッコ内は当初の想定値

大阪有機化学工業の強み ～特殊アクリル酸エステルと高純度化～

機能に合わせて
自社で設計開発が可能



特殊アクリル酸エステル

強み①：モノマー提案力
特殊アルコール構造
の組み合わせにより
様々な機能を発現

高純度化

“高純度化”特殊アクリル酸エステル

強み②：高純度化技術
更なる差別化機能を付与
低粘度 ⇒ インク性能UP
低毒性 ⇒ 生体適合性UP
低金属 ⇒ 半導体性能UP

重合/付加反応

アクリルポリマー

強み③：ポリマー提案力
・モノマー構造から提案可能
・アクリル反応制御により
多様な構造を実現

調合など

組成物（フォトレジスト、フィルム、複合材など）



モノマー/ポリマーからの開発により
様々な課題解決アプローチが可能

最終製品市場



半導体



自動車(塗料)



特殊粘接着剤



化粧品/ヘアケア材



ディスプレイ



コントロールを失敗すると
反応暴走による大事故のリスク

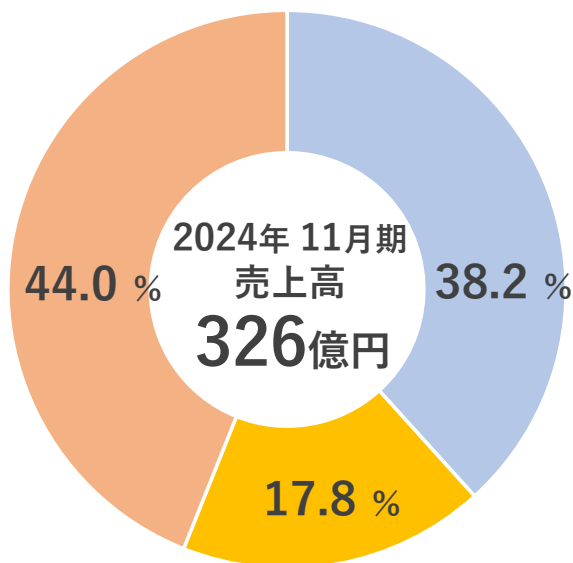
各事業セグメント 売上高比率

電子材料事業

表示材料用レジスト、ポリマー



半導体用原料

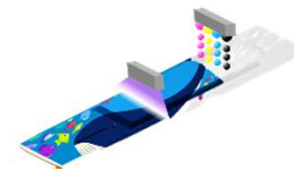


化成品事業

自動車塗料用原料



インクジェット用原料



特殊粘着剤用原料



コンタクトレンズ用原料



機能化学品事業

電子材料用溶剤



ヘアケア用ポリマー



曇り止め材料

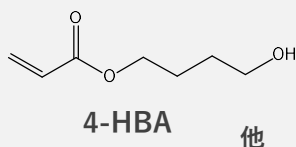
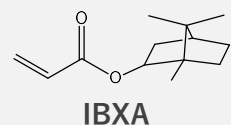


化成品事業

高度な蒸留技術を活かした**高品質なアクリルモノマー**を豊富にラインナップしております。

自動車塗料

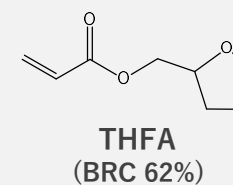
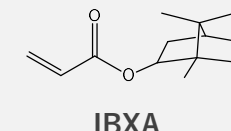
独自構造や高い純度により、世界シェアNO.1となる材料を複数保有



世界
シェア
1位

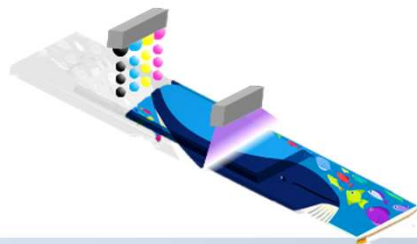
バイオマスアクリレート

天然由来の資源(バイオマス)を用いた環境にやさしい製品



※BRC…Bio Renewable Carbon

UVインクジェット・3Dプリンティング



ディスプレイ用光学系粘着剤



コンタクトレンズ原料



機能化学品事業

高品質を活かし、**化粧品原料・特殊溶剤**など多岐にわたり展開しております。

化粧品原料

高純度化技術を活かし、においの少ない材料を提供。

化粧品用防腐剤



ヘアケア用ポリマー



国内
シェア
1位

電子材料用溶剤



超高純度化技術により、
金属不純物をppbレベルまで低減。
半導体用原料などに使用。

防曇材料 (曇り止め材)



未処理

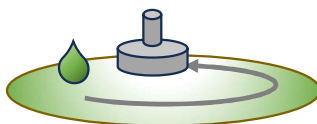
処理

超親水性ポリマーによるコート剤
独自のブラシ構造により、
高い曇り止め機能に加え、
セルフクリーニング性能も備える。

「万能型、超親水性コーティング剤の開発に関するお知らせ」
をプレスリリース (2025/1/31)

プライマー液との1液化による用途/機能の拡大
(信州大学、NT&Iとの共同研究)

- ・ フィルム,プラスチック用など使用用途を拡大
- ・ 耐久性性能の向上 (耐水、耐摩耗)



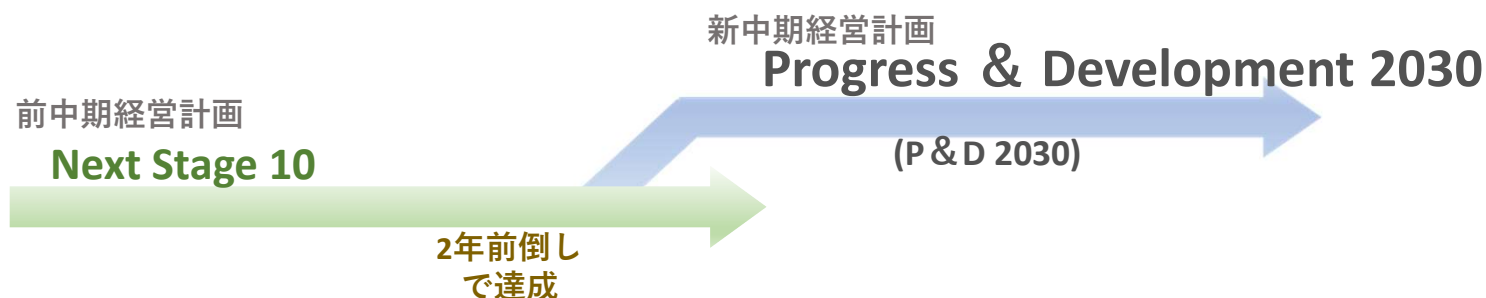
電子材料用CMPスラリー添加剤への展開も検討中

本日の内容

1. 大阪有機化学工業株式会社について
- 2. 中期経営計画 Progress & Development 2030**
3. 株主還元

中期経営計画 ～Progress & Development 2030～

前中期経営計画 Next Stage 10は2022年度で目標達成した事に加え、会計基準の変更(収益認識)もあり1年前倒しで終了。**2024年度から新中期経営計画 P & D 2030**をスタートいたしました。



	～FY24 (目標)	FY21 (実績)	FY22 (実績)	FY23 (実績)	FY24 (実績)	～FY26 (目標)	～FY30 (目標)
売上高 新基準	—	—	322 億円	289 億円	326 億円	400 億円	500 億円
売上高 旧基準	370 億円	350 億円	達 374 億円	336 億円	—	—	—
営業利益	50 億円	58 億円	達 59 億円	35 億円	46 億円	56 億円	75 億円
売上高営業利益率	13.5 %	16.7 %	達 18.4 %	12.4 %	14.1 %	14.0 %以上	15.0 %以上
戦略・事業投資	—	16 億円	11 億円	86 億円	累積 300 億円以上		
ROE	10.0 %	13.6 %	達 11.9 %	7.8 %	9.1 %	10.0 %以上	12.0 %以上
ROIC	—	9.7 %	9.3 %	5.4 %	6.6 %	8.0 %以上	9.0 %以上
配当性向	—	22.2 %	24.9 %	36.6 %	34.5 %	40 %目安	

中期経営計画 P & D 2030 重点事業領域の施策

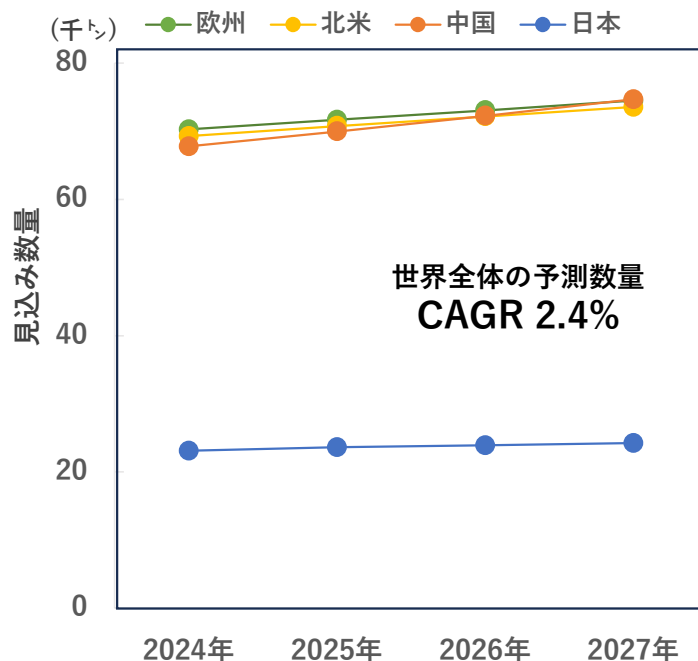
	ターゲット (市場,用途)	目標	投資・施策
化成品	環境	BRC* 100%バイオマスアクリレートの開発/上市	新プロセスによる新製品開発(大学との共同研究)
	ディスプレイ	主力製品 4-HBAの供給体制強化	新規製造プラント建設 プラントの生産能力強化
機能化学品	フィルムコート 電子材料 生体適合材 など	水溶性ポリマーの用途展開	ポリマーブラシ材 LAMBICの1液化技術取得/展開 CMPスラリー添加剤の開発(大学との共同研究)
電子材料	先端半導体	最先端半導体用材料の開発強化 周辺材、後工程材への展開	開発～試作におけるスピーディな材料開発 既存製造設備の改造/強化
	VR、車載 センサー など	ネガレジスト材の新規用途への展開	レジストの厚膜化、薄膜化、低温硬化対応
事業開発室	ウェアラブル センサー など	有機無機複合材、圧電材の上市/量産	大学、企業との共同開発推進 学会、展示会、メディア発表などでのニーズ開発
海外販売 の強化	北米 アジア など	海外市場への販売強化	北米拠点の設置 韓国、上海、北米拠点によるチャネル戦略

*BRC : Bio Renewable Carbon

中期経営計画 P & D 2030 化成品セグメントでの取り組み

歴史の長い製品群ながら、技術・販売・製造の強い連携により、更なる発展に向け施策を投じております。

アクリレート 市場規模予測※



※グラフは富士経済「光機能材料・製品市場の全貌」を基に弊社作成

ニーズに対応可能な
供給体制

生産能力の拡充

- ・ プラント投資/工程改善による生産能力 & 効率向上
- 中期経営計画 P&D2030での投資額 約 5.3 億円
BzA, V#200, 4-HBA など 生産能力 約1.1 倍 UP

製造

タイムリーな
供給体制の構築

新製品の
迅速な工業化

販売

ニーズの
素早い製品化

技術

技術開発の継続

- ・ 最効率な生産方法への転換
- ・ 新規化合物の開発によるラインナップの拡充 (100%バイオマス化アクリレートなど)

海外市場への
シェア拡大

販路の拡大

- ・ 海外への販路拡大
- ・ 北米販売拠点

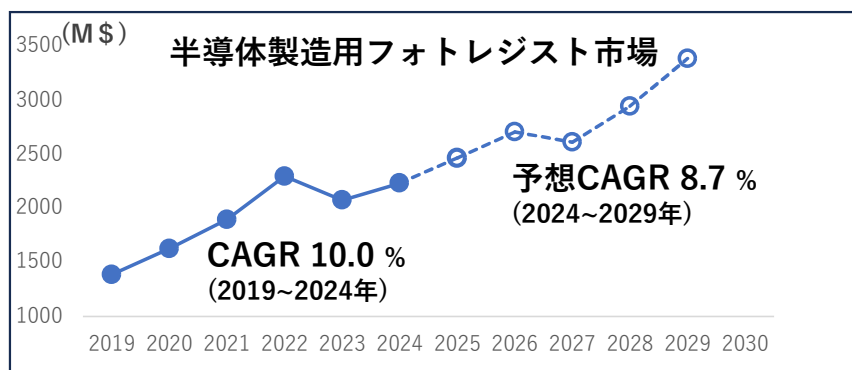
新中村化学工業株式会社との合併企業

2025年上期 基本合意書締結
2025年下期 合併会社設立予定

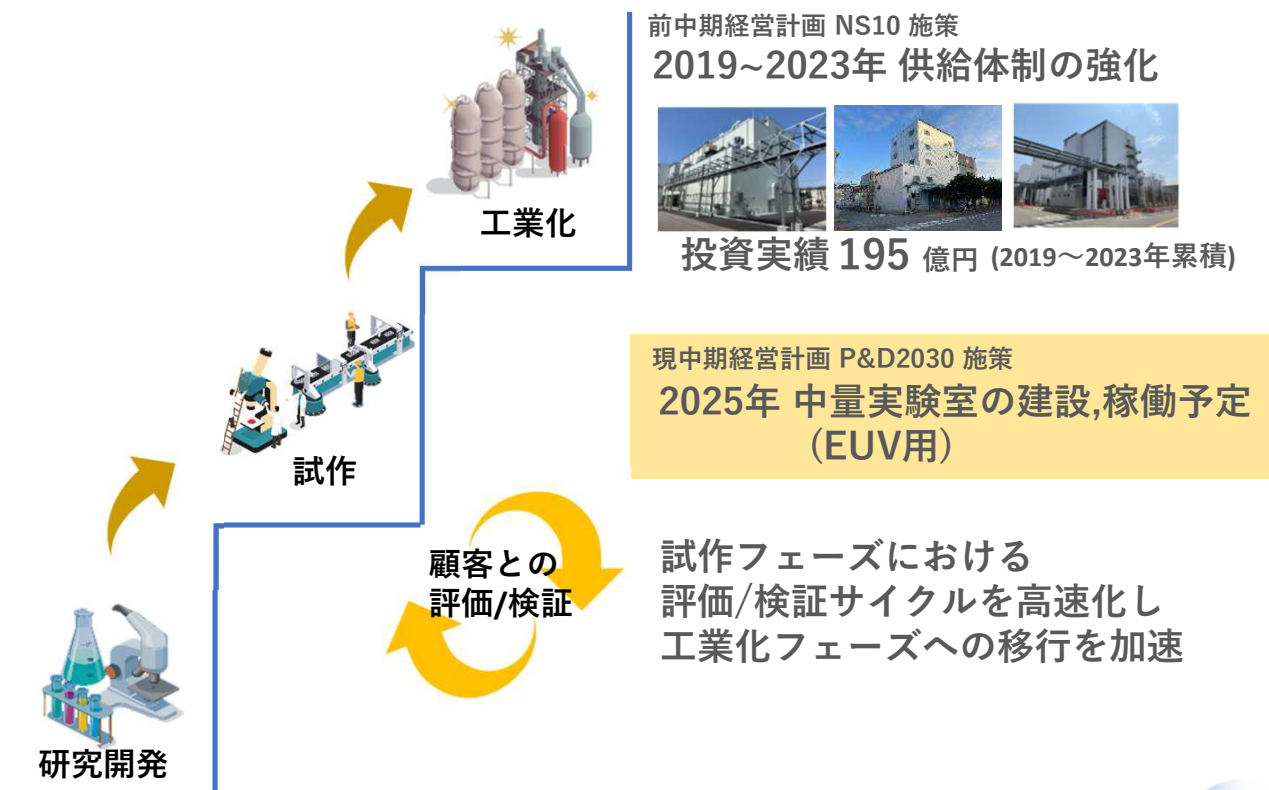
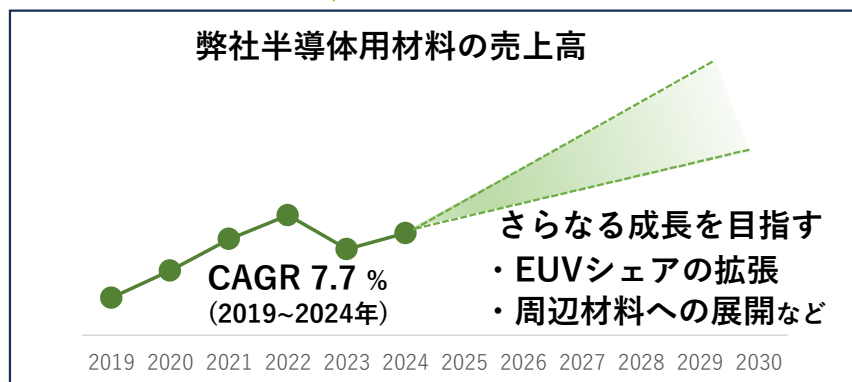


中期経営計画 P & D 2030 半導体用材料での取り組み

ニーズの増加に備えた供給能力を強化に加え、現中期経営計画では中量実験設備の建設/稼働を予定。先端材料に最適なスケールでの検討が可能になり顧客との評価/検証サイクルを高速化。開発から工業化までのスピードを加速してまいります。



レジスト市場と弊社事業成長は連動



※市場グラフは富士経済「2024年 半導体材料市場の現状と将来展望」を基に弊社作成

中期経営計画 P & D 2030 海外戦略の強化

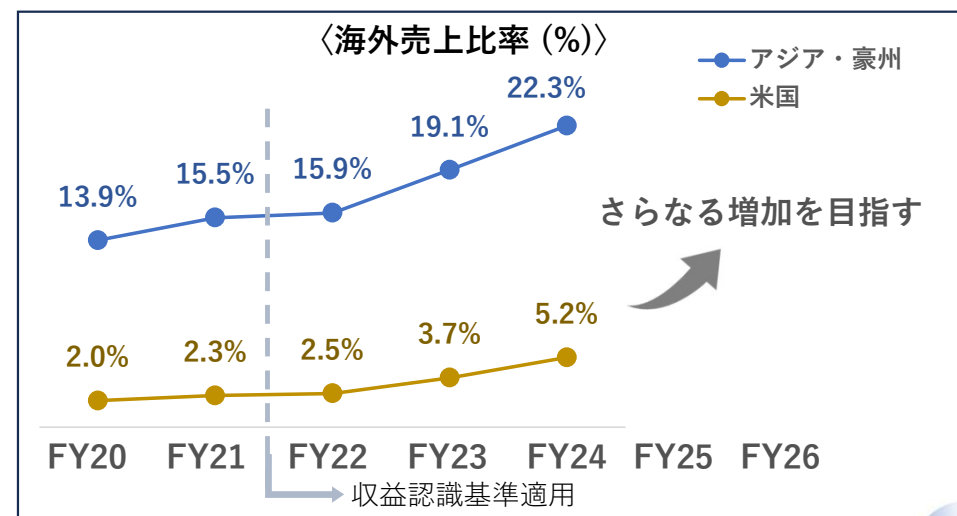
2024年に韓国拠点を設置。さらに2025年に北米拠点設置を予定。
中国拠点と共にアジア・アメリカへの拡販に注力し、海外販売拡大に努めます。



北米への拠点設置を計画

米国における特殊アクリル酸エステル類の販売の強化の為、
新中村化学工業株式会社（資本金 1億円, アクリル樹脂製造販売）
との合併会社設立に向け基本合意書締結

2025年上期 基本合意書締結
2025年下期 合併会社設立予定



中期経営計画 P & D 2030 グリーン社会実現に向けた取り組み

資源効率化や3Rへの技術開発投資を実施し、グリーン社会実現に向け貢献していきます。

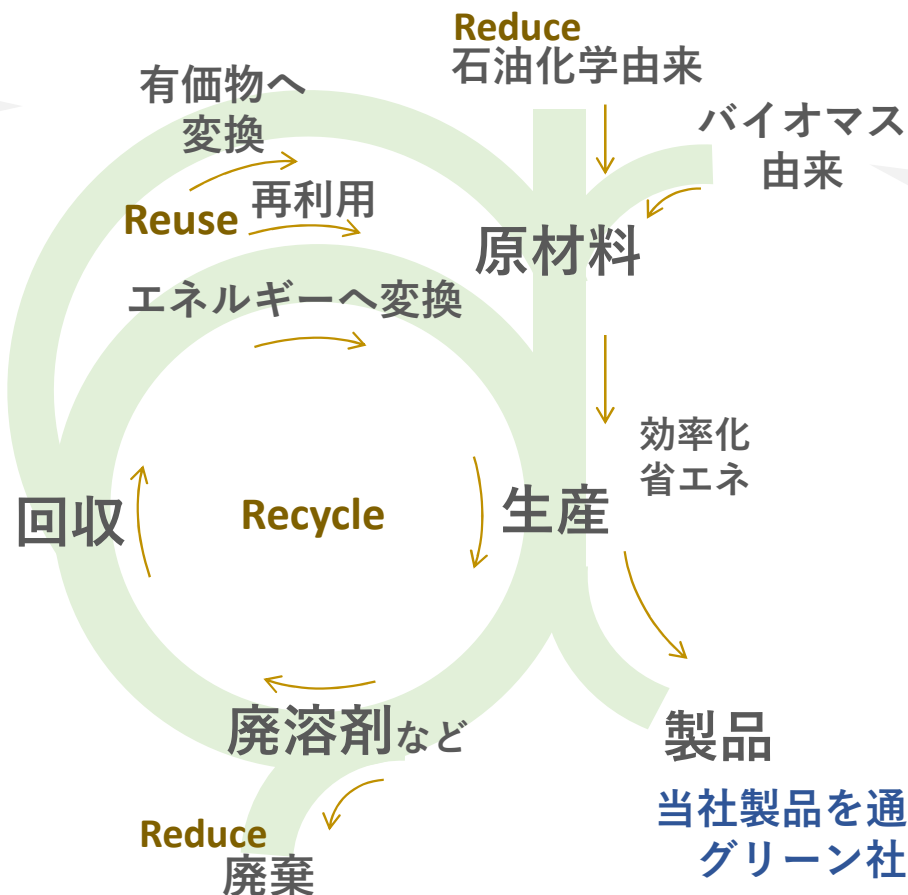
新プロセスによる アクリル酸エステル開発 (開発中)

大学や専門機関との共同研究により
技術開発中。
新プロセスによりCO₂や廃溶剤などを
原材料にアクリル酸などを合成。

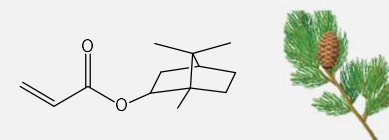
廃溶剤利用ボイラー



社内で発生する廃溶剤等を燃料とする。
CO₂排出量/廃棄物量の削減とともに、
エネルギーコストを大きく削減。



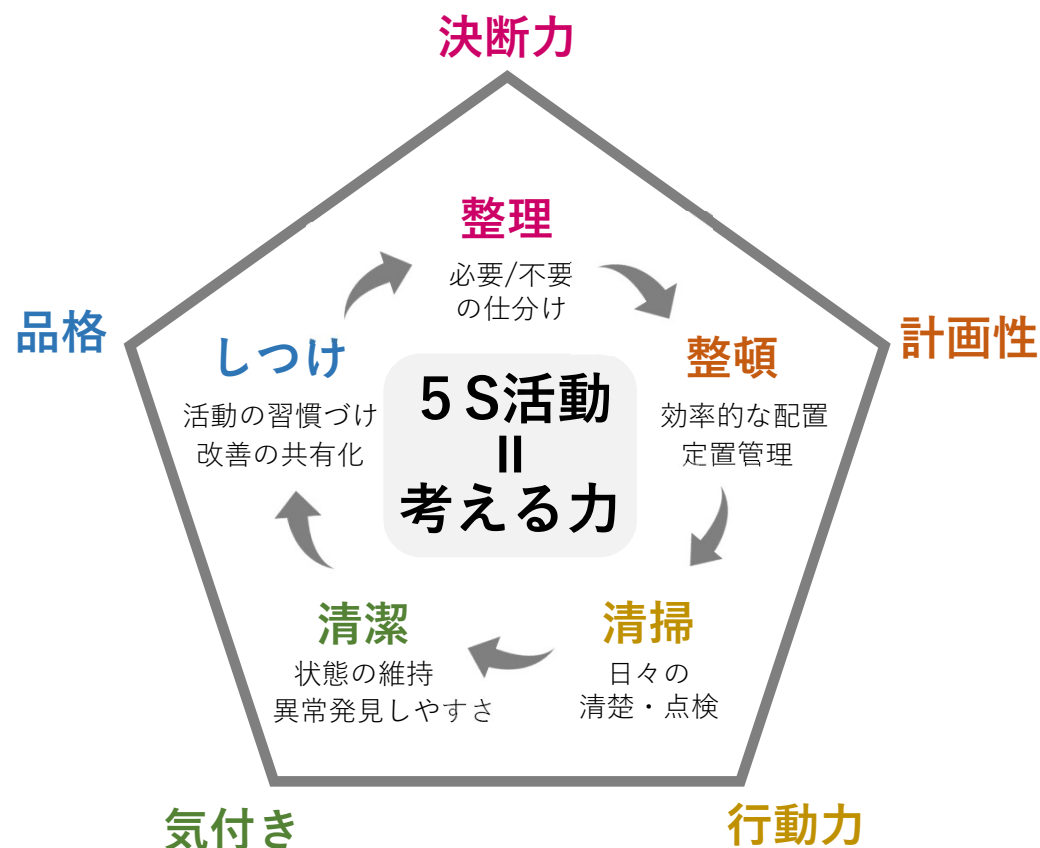
バイオマスアクリレート



バイオマスを原材料とし製造。
顧客製品の環境負荷低減へ貢献
BRCを向上し、さらなる負荷低減
を目指していく。

人材育成 ～5 S活動～

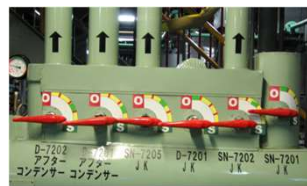
30年以上活動を続けている5 S活動により、保全や改善を常に検討する事が企業文化として根付いている。
⇒ 全社活動を通じた、個人の成長と組織の発展を促す仕組みとなっております。



1993年 12月キックオフ (OYPM活動)

⇒ 日々の活動 と 年2回の全社的なレビューを30年以上継続

⇒ 企業文化として当社の強みを支える基盤に



高効率/高生産性な
仕組みの構築



高い品質管理能力
高い技術力



安全で清潔な
作業環境

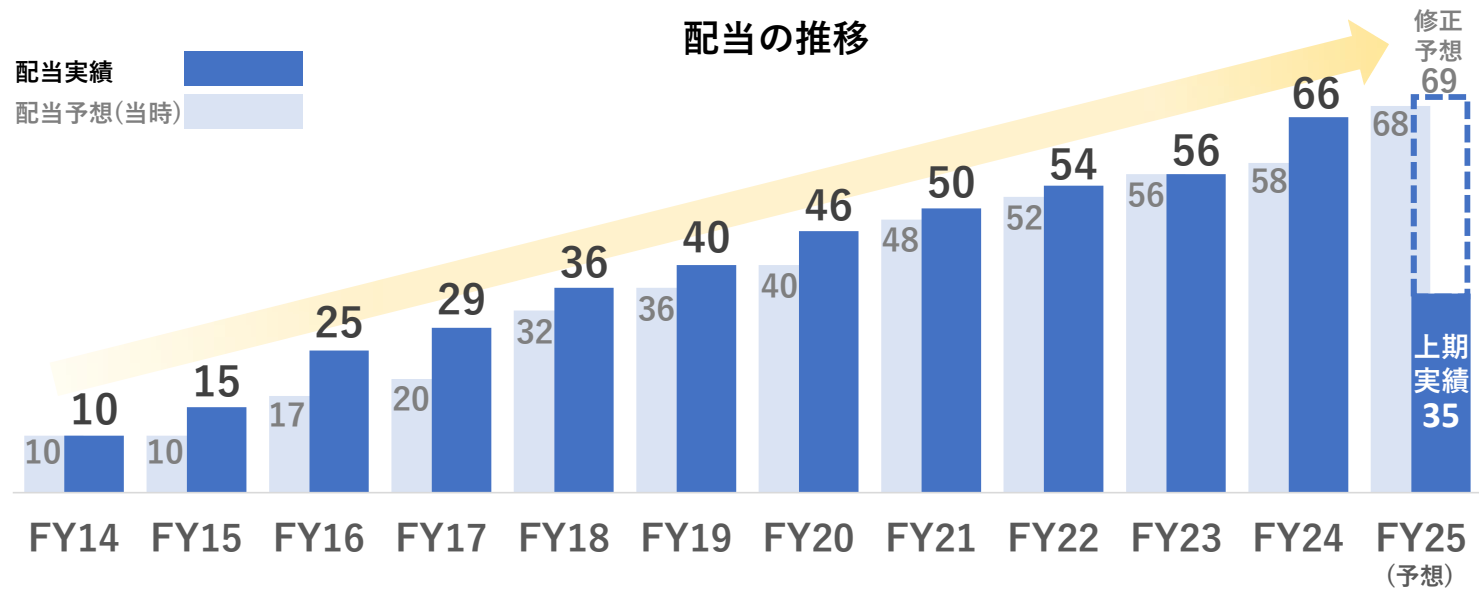
本日の内容

1. 大阪有機化学工業株式会社について
2. 中期経営計画 Progress & Development 2030
3. 株主還元

株主還元

FY24は大幅に増配をし、株式配当を10年連続増配。FY25も増配を予想。
FY15より増配修正をほぼ毎年実施。(FY23を除く)

配当性向 40%目安とし、機動的な自己株取得を実施しつつ株主還元向上につなげてまいります。



株主配当
10年連続増配
11年連続増配(予想)

EPS	39円	57円	91円	97円	121円	137円	150円	226円	217円	153円	191円	165円
配当性向	25.7%	26.4%	27.5%	30.0%	29.8%	29.2%	30.8%	22.2%	24.9%	36.6%	34.5%	41.1%
総還元性向	25.7%	37.9%	36.4%	30.0%	46.5%	29.2%	30.8%	22.2%	60.7%	54.7%	45.0%	—
自己株取得	-	-	336 百万円	-	449 百万円	-	-	-	1,698 百万円	598 百万円	426 百万円	2,224 百万円 (2025年1月)

配当性向 40 %目安
機動的な自己株取得

ご清聴 ありがとうございます



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

<https://www.ooc.co.jp>

証券番号 4187(東証プライム)

< 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)

